

問1 日本最長の河川である信濃川の名称の由来や特徴について説明したものとして、最も適切な内容を選びなさい。（2025年 愛媛公立入試 類似）

- かつての令制国名である信濃国に由来し、長野県内では千曲川と呼ばれている。
- 流域面積が日本で最も広く、関東地方から新潟県へと流れている。
- フォッサマグナの西端に沿って流れ、静岡県で太平洋に注いでいる。
- 新潟県にある山脈を水源とし、山形県を経て日本海へと注いでいる。

問2 中部地方の4つの県（新潟県、富山県、長野県、愛知県）を比較した統計において、面積が約1万3562平方キロメートルと4県の中で最も広く、かつ果実の産出額が約557億円に達し、他県（約22億円～207億円）と比べて際立って高い数値を示している県はどこか、次の中から選びなさい。（2019年 和歌山公立入試 類似）

- 長野県
- 新潟県
- 愛知県
- 富山県

問3 長野県などの高冷地では、夏でも涼しい気候をいかしてレタスなどの野菜を栽培し、東京などの大都市へ出荷しています。このような農業の仕組みとその利点について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 熊本県公立入試 類似）

- 標高が高い地域の冷涼な気候をいかし、平地の産地が品薄になる夏に時期をずらして出荷する抑制栽培が行われている。
- 冬でも温暖な気候をいかし、他の地域よりも収穫時期を早めて、高い価格で販売する促成栽培が行われている。
- 大消費地に近い立地をいかし、収穫したばかりの新鮮な野菜を輸送費を抑えて市場へ届ける近郊農業が行われている。
- 広大な平坦地をいかし、大型の機械を導入して生産コストを下げ、大量の野菜を安定的に供給する土地利用型農業が行われている。

問4 日本の都道府県別のお茶の生産量に関する統計において、国内生産量の約四割（39.6%）を占め、全国一位となっている都道府県はどこですか。（2017年 高知公立入試 類似）

- 静岡県
- 鹿児島県
- 三重県
- 京都府

問5 中部地方の北陸各県における製造業の特色について述べた文として、正しいものはどれですか。統計上の製造品出荷額の内訳を説明した内容に基づき、適切なものを選びなさい。（2016年 福岡県公立入試 類似）

- 新潟県では食料品や電子部品の割合が高く、富山県では化学工業や輸送用機械の割合が高い。
- 富山県では石油・石炭製品の割合が最も高く、福井県では電子部品の製造が中心となっている。
- 福井県では印刷業が盛んに行われており、新潟県では輸送用機械の出荷額が最も多い。
- 新潟県では化学工業が、富山県では繊維工業が、それぞれの県の製造品出荷額の半分以上を占めている。

問6 日本の気候と伝統的な生活に関する記述として、北西の季節風の影響を強く受ける地域で見られる「合掌造り」の住居の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2016年 長野県公立入試 類似）

- 冬の積雪の重みに耐えるため、太い梁と急な角度の屋根を備えている。
- 風通しを最優先し、壁を少なくして床を高く上げることで、夏の暑さを凌いでいる。
- 火山灰の堆積を防ぐために、屋根を滑りやすい瓦で覆い、傾斜を緩やかにしている。
- 季節風による火災の延焼を防ぐため、周囲を厚い土壁で囲んだ倉庫のような構造にしている。

問7 北陸地方のように、冬季に降水量が多く積雪が厳しい地域において、輪島塗や小千谷ちぢみといった伝統産業が発達した主な理由として適切なものはどれですか。（2023年 岐阜公立入試 類似）

- 冬の間は積雪によって農作業ができないため、屋内で行える手作業を副業として進めたから。
- 雪解け水を利用した水力発電が早期に普及し、機械による大量生産が容易だったから。
- 乾燥した冬の空気が、漆の乾燥や布の染色を定着させるのに最も適していたから。
- 広大な森林から得られる豊富な木材を、冬の間にソリを使って容易に運び出せたから。

問8 中部地方の福井県に位置する若狭湾や、石川県の能登半島の一部では、山地の谷に海水が入り込むことで、小さな岬と湾が連続する複雑に入り組んだ海岸線が見られます。このような海岸地形の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。（2022年 山口公立入試 類似）

- リアス海岸
- 三角州
- 砂州
- 海岸平野

答え合わせ・解説

問1	答え 1 かつての令制国名である信濃国に由来し、長野県内では千曲川と呼ばれている。	信濃川という名称は、新潟県側から見て「信濃国（現在の長野県）から流れてくる川」であることに由来しています。長野県内では「千曲川」という別名で呼ばれることが大きな特徴です。なお、流域面積が日本で最も広いのは利根川、太平洋に注ぐ中部地方の河川には天竜川などがあります。
問2	答え 1 長野県	長野県は中部地方で最大の面積を持ち、その多くを山地が占めています。内陸の盆地を中心とした地形は、冷涼な気候や日当たりの良さを生かした果樹栽培に適しており、リンゴやブドウなどの産出額が近隣県に比べて非常に高いのが特徴です。一方、新潟県は米、愛知県は野菜や花の産出額が高いという異なる特徴を持っています。
問3	答え 1 標高が高い地域の冷涼な気候をいかし、平地の産地が品薄になる夏に時期をずらして出荷する抑制栽培が行われている。	長野県の高原地帯で行われているレタス栽培は、標高の高さによる夏の涼しさを利用した「抑制栽培」の代表例です。平地では気温が高すぎて野菜の生産が難しい夏から秋にかけて収穫・出荷することで、他の産地との競争を避け、有利に販売することができます。これに対し、暖かい気候を利用して時期を早めるのは「促成栽培」、都市の近くで行うのは「近郊農業」であり、それぞれ仕組みが異なります。
問4	答え 1 静岡県	静岡県は、全国の茶の生産シェアの約四割を占める日本一の産地です。二〇一四年の統計データでは、一位の静岡県に次いで二位が鹿児島県（29.4%）、三位が三重県（8.1%）、四位が宮崎県（4.6%）となっており、静岡県が圧倒的なシェアを誇っています。牧之原台地などの広大な土地を利用した栽培が古くから盛んです。
問5	答え 1 新潟県では食料品や電子部品の割合が高く、富山県では化学工業や輸送用機械の割合が高い。	北陸地方は県ごとに発達している工業分野が異なります。新潟県では米どころとしての背景から食料品工業が発達しているほか、電子部品の製造も盛んです。富山県では、豊富な水資源と電力を背景に発展した薬品などの化学工業や、輸送用機械の割合が高いという特色があります。選択肢にある石油・石炭製品や印刷業は、この地域の主な特色とは言えません。
問6	答え 1 冬の積雪の重みに耐えるため、太い梁と急な角度の屋根を備えている。	合掌造りが発達した地域は、冬の北西の季節風によってもたらされる雪が数メートルに達することもある世界有数の豪雪地帯です。湿った雪は非常に重いため、家屋が損壊しないよう急な傾斜の屋根にして雪を落とすだけでなく、内部には太い柱や梁を用いた強固な骨組みが作られています。このような住居が密集する集落は、日本の伝統的な景観として重要視されています。
問7	答え 1 冬の間は積雪によって農作業ができないため、屋内で行える手作業を副業として進めたから。	北陸地方などの豪雪地帯では、冬の間は田畑が雪に覆われて農業を行うことができません。そのため、農家の人々が冬の間貴重な現金収入（副業）を得るために、家の中で行える手作業を発達させました。これが現代まで続く伝統的工芸品の基盤となっています。
問8	答え 1 リアス海岸	起伏の激しい山地が沈水したり、海面が上昇したりすることで、かつての谷の部分に海水が入り込み、複雑な海岸線が形成されました。中部地方では若狭湾がその代表例として知られています。